



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD



海上保安制度創設70周年

150th
Lighthouse
ANNIVERSARY



平成30年9月14日
海上保安庁

激動の明治期を支えた海の先人たち

～水路・灯台記念日特別展示～

9月14日から11月30日の間、9月12日の水路記念日、11月1日の灯台記念日にあわせ、海上保安庁が所蔵する明治期の古書等、初展示となる12点を含む特別展示を海洋情報資料館で行います。

今回の展示は、洋式灯台や海図が未発達の江戸時代末期から明治期にかけて、外国の技術を導入し、航海の安全をささえる基盤を構築した明治の先人たちの歩みを当庁が所蔵する明治期の古書等で振り返る企画となっています。

1 期間

平成30年9月14日（金）から11月30日（金）まで
（火、木、土を除く）午前10時から午後5時（入館無料）

2 場所

青海合同庁舎1階 海洋情報資料館・海の相談室

3 主な展示内容

かいぐんてんらんき じゅんこうすいろにっし
「海軍天覧記 巡幸水路日誌」、

きんせいしけんてんまつ
「金星試験顛末」、

「江崎灯台図面」のほか16点（別紙1参照）

※海洋情報資料館では、今回の特別展示のほか、常設展示として、伊能図や歴史的な測量機器など、海洋調査等に関する貴重な歴史資料がご覧いただけます。

4 見所解説

9月12日は、海洋情報部の前身である兵部省海軍部水路局の設立日を記念した水路記念日です。また、11月1日は、我が国初の洋式灯台である観音埼灯台の起工日を記念した灯台記念日です。

今回の特別展示は、両記念にあわせ、「海上保安制度創設70周年」、「明治150年」、「灯台150周年」を記念して、海上保安庁で所蔵する明治期の古書の一部等を広く国民の皆様に公開するもので、明治以降の日本近代化の歩みを次世代に遺す、伝える企画として行うものです。

特に、今回展示する「海軍天覧記かいぐんでんらんき 巡幸水路日誌じゆんこうすいろにっし」は、当時（明治4年）の様子が詳しく記載され、水深が記載された海図が整備されていない水路業務の事情のみならず、行幸の様子が偲ばれるものとなっています。「金星試験顛末きんせいしけんてんまつ」は、日本の正確な位置が定まっていな中、明治7年の「金星の太陽面通過」の（星食）観測を行い、日本の経緯度値を求めるため、外国から派遣される観測隊へ明治政府が如何に対応したか詳しく分かるものです。これらを広く一般に公開するのは、初めてとなります。

さらに、平成10年（1998年）に発見された現存する江埼灯台の設計図（1869年、R.H. ブラントン設計）と当時の明石海峡付近の海図を合せて展示し、先人の技術や航海の安全を確保した様子が分かるものとなっています。この他、明治期に使用されていた「ガス灯器」や「フレネルレンズ」も展示し、明治期の灯台を用いた技術が分かるものです。

主な展示内容

・ 春日記行 刊行年月：－

明治4年（1871年）海軍少佐に任じられた柳樽悦が測量艦「春日」艦長となり、北海道沿岸測量を実施した際、見聞した水路、風土事情などを4巻に収めたもの。

・ 海軍天覧記 巡幸水路日誌 刊行年月：明治5年

明治天皇をお迎えして行われた海軍の操練、明治天皇の巡幸を日誌風に纏めたもの。巡幸の様子が詳しく書かれており、当時は、未測量の海域が多く、海図も未整備なため、柳樽悦が水路職員と航行水域を先行しながら測量をしてお召艦を先導したことも書かれている。

・ 北海道水路誌 刊行年月：明治6年3月

春日記行を基に、明治6年（1873年）に刊行された水路誌で、現地で手記した我が国初の水路記事。

・ 金星試験顛末 刊行年月：－

明治7年、金星の太陽面通過観測を日本で行うため、明治6年5月頃から同8年3月中旬までの間の往復書簡、電報、辞令、特記事項が時系列で記載されているもの。また、米国人星学家テットマンによる東京の観象台～長崎間の電線を使用した経緯度測定についての文書なども収められている。

・ 東洋灯台表全 刊行年月：明治16年8月

航海安全のため、東洋各国の灯台630基余りを記載したもの。

・ 海軍歴史1～9 刊行年月：明治22年3月

あまり知られていない徳川幕府海軍の事情が忘却されることを懸念した海軍次官 樺山資紀が、海軍創設から発展に寄与した勝海舟に依頼して、その歴史を取りまとめたもの。

・ 東京築港計画書 刊行年月：明治22年2月

東京都市区臨時委員 海軍大佐 肝付兼行等が東京都市区臨時委員長 芳川顕正へ提出したもの。水路業務の観点から、水深、潮汐、重力の調査が必要と述べられている。

・ 江崎灯台図面

外国からの要請により明治4年（1871年）に建設された現存する江崎灯台の図面（1式）

・ 第六等不動フレネルレンズ

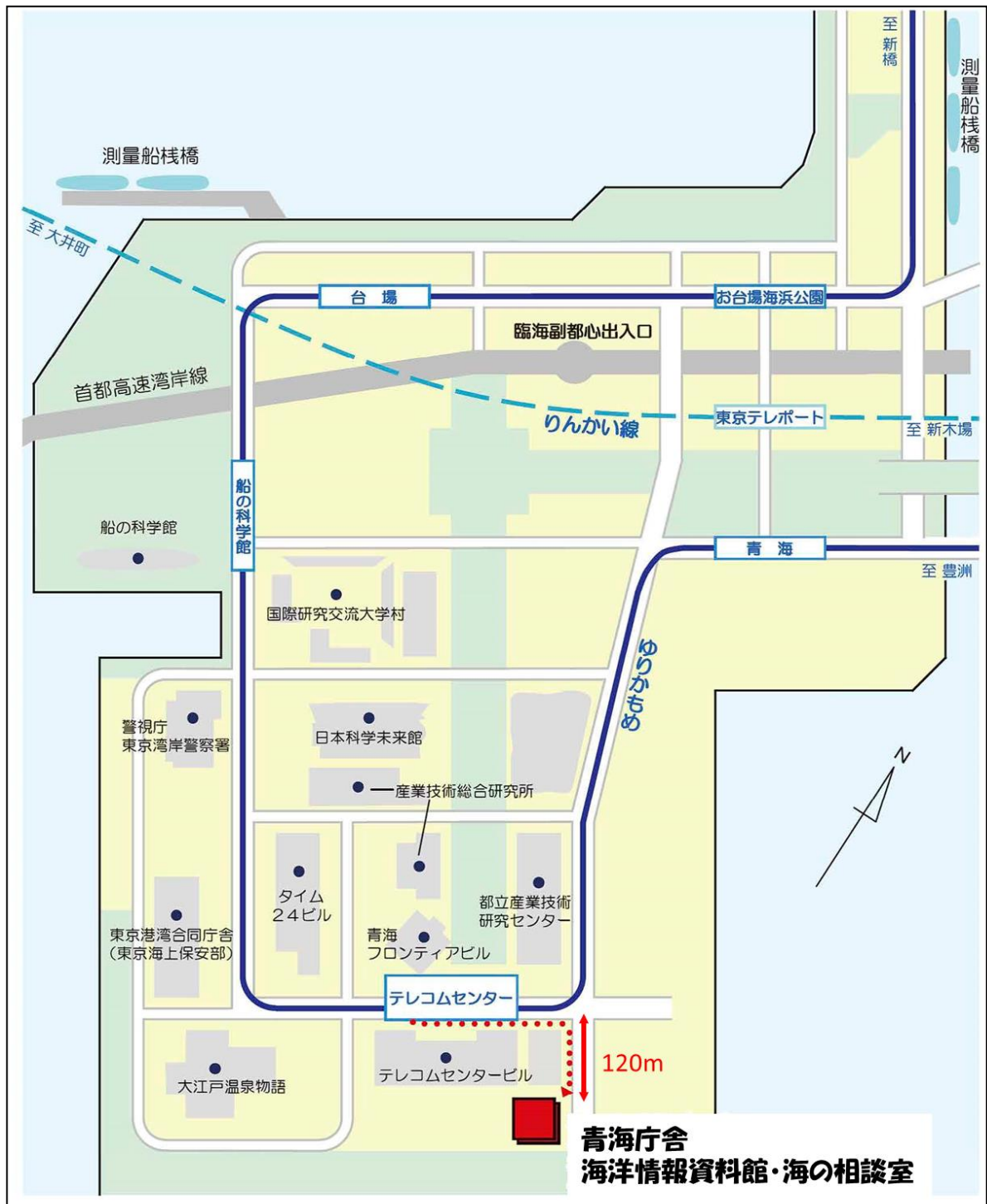
1822年にフランス人のオーギュスタン・フレネルが発明した灯台用のレンズ。本レンズは外国の技術を取り入れ日本で作成されたもの。

・ ガス灯器

明治後期から灯台の光源に使用されるようになった灯器。本器は、外国の技術を取り入れ日本で作成されたもの。

・ 明治期灯台の写真パネル

明治期に建てられ現存する主な灯台の写真パネル。



海上保安庁海洋情報部

住所 東京都江東区青海2丁目5番18号 青海合同庁舎

交通 新交通ゆりかもめ「テレコムセンター」駅下車、徒歩5分

(テレコムセンタービル交差点から120m)